

<今回>280回目 2020年8月24日(月)15時~18時 602号室

読書は10冊目「失われた九州王朝」再読 p191(3)「使者の問題」より

<前回>279回目(20-8-14) 出席者 8名

資料(20-08-14-1)前回のまとめ(清水)

A 報告 渡辺妙子さんの様子が分かった。この1月に多元の新年会に出かけようとバス乗り場で交通事故にあつて、緊急入院した。膝の骨折で1ヶ月以上入院、退院後も要介護になって一人では外出できず、やっと会費の振込が出きるようになった。当方も新型コロナウイルスの影響から3月から自粛している旨手紙で資料と共に連絡した。現在は旭区の老人福祉課の指導で、週3日のデイサービスなど看護は出来ていると担当者に連絡してわかった。

臧克和氏(上海大学)と臺をキと読む件で連絡を取り合っているがコロナ問題で進展が図れない(大墨氏)。

C 読書 朝日文庫本の p179 王と侯王

1) 諸侯王表の最初の例 帝の弟や子供、孫が王と呼ばれ、諸侯王表に載せられている。北朝鮮の学者金錫享は百済王と倭王の関係を王と侯王の関係にして、百済王が自らを天子になぞらえているのは無理な解釈で、形式論でいえば中国の天子に対して百済王も倭王も対等というのが古田の最初のパンチである。

2) 漢書の諸例は班固の先例で、史書陳勝伝の「王侯将相焉んぞ種あらんや」の侯王が諸王を指すとみるのが自然である。後漢の金石文(鏡)に出現する例を9例(梅原末治の漢三國六朝紀年鏡図説所収)あげる。

3) 日本の学者は日本書紀の書法から(天皇中心主義の立場から)外国から遣いが来れば中国からでも貢献と記す。奉、献の文字はない、下賜を示す賜、給の文字もない。金は末尾の伝示後世を下賜の言葉とする。

4) まとめ①献上説も下賜説も根拠がない。②倭王と百済王は対等の立場。③供供は丁重の辞の限度を超えない。④為倭王旨造は百済王が倭王の為にこの異形の刀を特注されたという事実の中に百済王が特に倭王の歡心を得んとしている当時の状況が伺える。(漢文の読み方の法則にあるか)

5) 倭王旨とは 栗原は人名としたが日本書紀の天皇名からこじつけた。倭旨という一字風名称と考えれば3世紀は壹与、4、5世紀は倭讚など倭の5王との間を埋める倭旨という名前の王であると解釈する。百済王が友誼と歡心を求めたのは近畿大和の権力者でなく、九州の卑弥呼、壹与を継承する権力集団の王である。

6) 流伝の道 親鸞研究に前例がある。坂東本「教行信証」は唯一の親鸞の真筆本で今東本願寺最高の寺宝とされている。元は坂東報恩寺に伝来されてきた。開基は親鸞の高弟性信の奥書が自筆本の末尾にある(弘安6年1283年2月2日)。報恩寺が独立性を失ったのち、大正2年の関東大震災を機に本山に献上することになった。以降本山至高の重宝となる。報恩寺への伝来経路にも3種類以上あり、別々に伝来経路を各巻がしめしている。それがある時期、東国親鸞集団の中心地報恩寺に収蔵された。それが東本願寺に集められた。権力と権威へ向かって「帰属と献上の法則」が七支刀にもあったのだ。

7) 記紀の記事は同じか、異なるか ①横刀・大鏡(古事記)問題 横刀は用例が記紀にある。いずれも佩刀の例である。②数字呼称問題 古事記は数字呼称が多い。異形の刀であれば、特に数字で表されるような場合は一般名でいうはずはない。文例を多数あげる。十握の劍、八咫鏡、天の日矛の将来もの多数(省略)。

次回日程 20-9-11(金) 15時から18時 601号室

20-9-25(金) 15時から18時 601号室